

令和 6 (2024) 年度事業報告書

全 般

令和 6 年度は、諸行事を概ね計画どおり実施することができた。

総観覧者数は、201,968 人（前年度比 105.1%）と令和元年以来となる 20 万人を超えた。

売店売上額は、52,891 千円（前年度比 110.9%）とこれも令和元年以来、5 千万円を超えるまで回復した。

なお、4 年計画の PCB 除去のための再塗装工事は 2 年が経過し順調に進捗した。

1 艦の修理整備

(1) 官（海上自衛隊）による修理工事

ア 電気の部

- ・ 漏電対策及び高圧受電設備定期点検
- ・ 艦内蛍光灯の LED 化

イ 船体の部

- ・ 前部艦橋右舷雨水管換装
- ・ 下甲板左舷エアコン補修
- ・ PCB 含有塗膜の剥離・再塗装（艦橋、前部主砲、前部右舷スタンション、外舷（左舷：艦首から舷門、短艇甲板上部床）
- ・ 今後の維持整備に資するための船体の板厚計測（16 ケ所）
- ・ 船体腐食部調査（艦首部）
- ・ 船内への浸水量調査のためのアクリル板ゲージ設置
- ・ 中央展示室ジオラマ一部補修
- ・ 艦橋海図室ドア、ビデオ室ドア補修

(2) 保存会による整備

- ・ 消防設備点検
- ・ 中部満艦飾のケーブル引っ掛かり取外し工事
- ・ 甲板工事に伴う警備センサーの移設及び復旧
- ・ 中甲板清掃（業者委託）（2 回）
- ・ ライトアップ用照明（8 台）及びタイマー更新（業者委託）
- ・ 男女トイレ手洗い補修（業者委託）
- ・ テレビアンテナの撤去及びインターネット回線へ移行
- ・ 売店エアコンの新替え
- ・ コインロッカー補修
- ・ 監視カメラ換装
- ・ 出口移設に係る講堂インターフォン移設、復旧
- ・ 講堂視聴覚機材スイッチャー補修

- ・ 艦内不用品の処分
 - ・ 木甲板等の補修（元整備係長への委託）
- (3) 海上自衛隊による奉仕整備等
- ・ 海上自衛隊第 2 術科学校学生による除草、塗装等の奉仕作業、(17 回、延べ 296 名)
 - ・ 海上自衛隊横須賀地方総監部上曹会及びその家族並びに米海軍 CP0（上甲板真水流し清掃）2 回（海上自衛隊約 65 名、米海軍約 80 名）

2 展観態勢

(1) 資料の整備等

ア 「戦艦三笠」1/100 模型修復

イ 副砲の欠損部品取付・復旧（9 門）

(2) 収蔵資料の現況

区分 種類	三笠保存会 (所蔵品)	海上自衛隊 (無償借受)	個人 (寄託)	6 年度 受 入 (所蔵品)	合 計
勲 章	52	0	12	0	64
武 器	64	0	3	0	67
絵 画	82	5	8	0	95
印 刷	160	11	2	0	173
書	191	52	40	1	284
被 服	86	0	9	0	95
写 真	308	195	9	0	512
証 紙	112	0	5	0	117
旗 布	15	0	3	0	18
工 作	127	21	12	0	160
陶 器	19	0	4	0	23
彫 刻	23	0	1	0	24
模 型	12	9	0	1	22
計 器	19	0	3	0	22
録 音	28	0	0	0	28
図 書	79	0	2	0	81
展示物品	0	8	0	0	8
合 計	1,377	301	113	2	1,793

(3) 資料の寄贈

ア 「戦艦三笠」1/50 模型 船の科学館から 2014 年以降借用していたものに対し、寄贈手続きを行った。

イ 日本海海戦時「血染めの布製書」軍艦霧島 機関少尉本多敬太郎書

(4) 資料の貸出

坂の上の雲ミュージアム（企画展 明治の最先端－近代化への道－）から日本海海戦電信誌他 3 点が返納

(5) 「三笠秘蔵 連合艦隊 艦隊コレクション」

日露戦争時の艦船模型(購入予定数：84 隻)のうち、3 隻(二等戦艦 鎮遠、通報艦 千早、駆逐艦 村雨)(累計:37 隻)を購入

(6) 展示設備の整備

ア 操艦シミュレーター新替え（6 台）

イ 中央展示室、展示物解説板新替え（8 3 枚）

ウ VR 補修（大型モニター新替え、ビデオカード交換、ゴーグル補修等）

エ 中央展示室ジオラマ模型一部復旧及びガラス交換（1 枚）

(7) 銃砲刀剣類の一斉検査を横須賀警察署にて受検

(8) ユビキタスガイド運用停止

2015 年総務省の事業で整備した三笠ユビキタスガイドの運用を停止した。これは ios のみに対応し、日本語のみであったが、2023 年に観光庁の補助事業として、アンドロイドにも対応し多言語化したスマホガイドを整備したため。

3 主催行事

(1) 日本海海戦 119 周年記念行事

5. 27（月）満艦飾とし、13 時 30 分から三笠講堂において、上地横須賀市長、伊藤横須賀地方総監、齋藤自衛艦隊司令官、ハーツ第 1 5 駆逐隊司令はじめ内外多数のご来賓及び三笠保存会お会員の出席をいただき、「記念式典」を厳粛に挙行了。本年も、講堂（座席数 320 席）の混雑防止のため招待者数は抑制し、会員は事前申込とし約 250 名が参加した。式典に引き続き横須賀音楽隊による「艦上演奏会」は雨天のため講堂で行うこととし一般の観覧者も加わり約 360 名が参加され、続いて後甲板での「艦上祝宴」では約 180 名の方が交流された。

なお、式典開始前には、裏千家淡交会横須賀支部の皆様による「呈茶」が、士官室と第 2 ビデオ室で行われた。

観覧料金を無料とした。

(2) 夏休み企画「三笠」こどもミュージアム

7. 20（土）から 8. 25（日）までの間、軍服着用記念撮影及びハンモック体験は猛暑のために中甲板に変更した他予定どおり開催した。期間の来艦者数は 23, 009 名、昨年比 103%、イベントに参加した子供たちは約 3, 300 名、昨年比 106%であり昨年を上回る参加が得られた。

- ・ 「書き込んで完成！三笠こどもノート」の配布（毎日）
- ・ 三笠こどもスタンプラリー（中学生以下）の実施（毎日）
- ・ 軍服着用記念撮影コーナーの開設（土日祝日及び 8/13, 14, 15）
- ・ ハンモック体験コーナーの開設（土日祝日及び 8/13, 14, 15）
- ・ みかさ工作ルームの開設（毎日）

- ・ 海自横須賀音楽隊艦上演奏会(8.4(日)1330-1415、講堂、参加者約 280 名)
 - ・ 掲揚軍艦旗等プレゼント募集(毎日)(応募 1,131 名)
- (3) 「第 61 回船の模型コンクール」作品展
- 9.7(土)から 9.23(月)までの間、下甲板において開催した。横須賀市内の小学校 28 校から 413 点の出品があり、横須賀市教育委員会指導主事に審査を依頼した。9.14(土)講堂にて表彰式を開催し、井上理事長から金賞から努力賞まで 62 名に賞状と副賞を授与した。金賞作品(計 6 点)は中央展示室右舷通路に 1 年間展示している。
- (4) 子供たちプラモデル教室
- 9.29(日)上甲板後部主砲前で講師にプロモデラー長谷川伸二氏を迎え、株式会社ハセガワよりプラモデルの提供を得て開催した。県内外の 21 名の小学生と保護者 18 名が参加した。
- (5) お正月イベント
- 正月三が日、「記念艦「三笠」でパワーを！」をキャッチコピーとして、パワースポット(三笠神社、三笠最上艦橋)巡り、スタンプラリー完走者による景品抽選会、甘酒サービス、軍服着用記念撮影、掲揚軍艦旗等プレゼント募集を行った。天候や曜日の並びが良く 3 日間で 3,124 名(前年比 148%)が来艦した。
- (6) 第 32 回書初め大会
- 1.4(土)下甲板において「第 32 回書初め大会」を開催した。横須賀市内の小学生 32 名が参加し、課題の作品を書き上げた。同日、横須賀市教育委員会指導主事に審査を依頼した。講堂にて表彰式を開催し、井上理事長から金賞等の賞状と副賞を授与した。作品は 1.6(月)～1.13(月)の間、艦内に展示した。
- (7) 新春たこあげ教室
- 1.12(日)三笠公園を管理するよこすか seaside パートナーズとの共催で、三笠下甲板と三笠公園において開催した。当日は 13 名の子供たちが参加し、「日本風の会」の会員の協力を得て、自分たちで描いたオリジナルの絵で和風作りを行い、完成した風を冬晴れのもと、三笠公園内の広場で「風あげ」を満喫した。

4 協賛行事

- (1) チャリティークラシックコンサート
- 4.20(土)一般財団法人シティサポートよこすかが主催するクラシックコンサートに協賛し講堂を提供した。今回は 2 回目で、横須賀に所縁のあるプロの演奏家によるコンサートであり、第 1 部は横須賀や海にちなんだ曲を、第 2 部は劇等に使われる曲で最後はドラマ「坂の上の雲」の主題歌スタンドアローンで締めくくられ、上地横須賀市長など約 250 名の方が楽しまれた。募金箱が設置され、募金(167,663 円)は社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会に全額寄付された。
- (2) 横須賀淡交会講演会
- 4.21(日)茶道裏千家淡交会横須賀支部が主催する講演会に協賛し講堂を提供した。お家元からの講師でカナダ出身の講師ランディ・チャネル宗榮氏、テーマ

「お茶の魅力」で講演をされた。お茶にとどまらずおもてなしの心に通ずる日本文化について説かれた。横須賀近郊の茶道愛好家約200名が参加し質疑応答も活発に行われた。また、講演会に先立ち士官室においてZ旗のお菓子で茶会が行われ、会場には千玄室大宗匠が日本海海戦80周年の行事の際に使用した錨マーク入りのガラス製の茶器や、戦友である俳優の故西村晃氏と共著の色紙も展示された。

(3) よこすかカレーフェスティバル 2024 (25周年記念)

5.18(土)、19(日)カレーの街よこすか推進委員会が主催する同行事に協賛し、観覧料金一般・シニアを300円としたほか、e-スポーツ体験のために講堂を、表彰式の開催に左舷後部の張出部(14番砲室)を提供した。来場者の誘引のため、スタンプラリー、軍服着用撮影、ハンモック体験を実施した。

会場への入場者数は、二日間で51,000名(昨年比108%)であり、三笠の有料入艦者は4,419名(昨年比97%)であった。また、幼児を含めた子供たちの入艦は約800名であった。

(4) よこすかYYのりものフェスタ

6.8(土)、6.9(日)ヴェルニー公園で開催された一般社団法人横須賀市観光協会主催の同イベントに協賛し、同イベントのチラシ持参者は観覧料金一般・シニアを300円とした。(約280名)

(5) 記念艦三笠でモールス体験

6.1(土)から6.9(日)の間及び10.13(日)、14(月)、12.21(土)、22(日)、2.22(土)、23(日)、24(月)、3.22(土)、23(日)一般社団法人電波教育協会主催の同イベントに協賛し7番砲室、9番砲室、上甲板右舷ボートデッキ下で開催し、モールス体験、パネル展示、三笠の空中線を接続した電波の受信の展示(上甲板)、無線通信士国家試験受験のための相談を実施した。(体験者約1000名)

(6) 三笠艦記念第16回スポーツひのまるキッズ関東小学生柔道大会

7.14(日)神奈川県柔道連盟等が主催し、関東近県その他、北海道から愛媛までの1都1道1府20県から約700名の小学生柔道家が集まり横須賀市総合体育館で開催され、同大会に協賛して参加賞等を提供し理事長が観戦した。講習会も充実しており、世界の第一線で活躍する選手からの指導に熱心に取り組んでいた。

また、今回から記念艦三笠の紹介ブースを設置した。

(7) 横須賀流灯会(灯籠流しの会)

7.16(火)横須賀流灯会が主催する行事に協賛し、お供物の受取用のコンテナ設置に協力した。雨天のため読経供養に講堂を提供した。(約150名参加)

(8) なつかしの歌を歌う会

7.20(土)緑の会関係者が主催する、同会に協賛して講堂を提供した。(約150名参加)

(9) よこすか海洋シンポジウム 2024 (第26回)

9.1(日)よこすか市民会議が主催する同シンポジウム テーマ「横須賀と地震-海と陸の地震のメカニズム-」に協賛し講堂を提供した。

4名の講師が一般的な地震発生のメカニズムから三浦半島にある5つの活断層や、関東大震災による三浦半島の被害の紹介の後、横須賀市の指定している避難場所とその運営方法についても紹介があり、参加者は身近な問題として熱心に聴講していた。(約150名参加)

(10) 古今東西ユーフォニアム展

9.14(土)から9.23(月)の間、3回目となる今年は「ユーフォニアム誕生180年記念事業実行委員会」が主催し7、9番砲室において開催した。楽器の起源から現在までの国内外の歴史を紹介し、世界各地から集めた約30種類の楽器が展示された。9.16(月)は甲飛喇叭隊による「軍艦旗掲揚の再現展示」等が後部甲板で実施された。(約50名参加)

(11) よこすかキッズフェスティバル 2024

9.15(日)よこすかキッズフェスティバル実行委員会が主催する同イベントに協賛し、講堂を休憩場所として提供するほかモールズ体験や花火観賞(1830~1840)の場所を提供した。観覧料金一般を500円とした。

(12) 横須賀防衛講座

9.21(土)横須賀防衛協会等が主催する防衛講座「日本の安全保障と課題(中国の海洋進出と海洋紛争の平和的解決)」(講師:柳井俊二氏 元米国駐箚特命全権大使)を講堂で開催した。今年から猛暑を避けて9月に開催された。(約140名参加)

(13) よこすか開国花火大会 2024

10.6(日)一般社団法人横須賀市観光協会が主催し横須賀市が共催する同イベントに協賛金を供出した。また、上甲板での見学希望者をWebで募集(約680件)し、当選(約150件300名)された約200名と三笠保存会招待者約300名の方が約1万発の花火を鑑賞した。当日は花火大会対応のため16時閉艦とした。

(14) 第10回 Yokosuka 海道ウォーク(横須賀市西海岸で開催)

10.5(土)Yokosuka 海道ウォーク実行員会(神奈川県、横須賀市、一般社団法人横須賀市観光協会)主催の同イベントに協賛金を供出した。

(15) パルクール大会 2024(都市型障害レース)

10.26(土)東京都体育協会が主催し横須賀市が後援する同イベントが三笠公園で行われ、艦上での観覧者の安全確保及びインターネットによる動画配信に協力した。また、会場でアンケートに答えた方に三笠観覧料金の割引クーポン(一般・シニア300円)が配布され、主催者からは観覧料金の補助を受けた。

(16) 安全保障分科会

10.26(土)横須賀 アジア・太平洋問題研究会(YOKOSUKA COUNCIL ON ASIA-PACIFIC STUDIES(YCAPS))が主催する同会が開催され、講堂において発表会が、士官居住区において図上演習が行われた。(参加者30名)

2.19(水) YCAPC 研修員が研修した。(参加者15名)

(17) センスアイランド・ランド 感覚の島/感覚の地 2024(アート作品の展示)

10.26(土)から12.15(日)の間、横須賀市等が主催する同イベントに協力し、オ

ブジェを三笠公園に面する舷側脇に展示した。

(18) 「横須賀市 LINE 公式アカウント」友だち登録でおトク！キャンペーン

11.1(金)から 2025.3.31(水)の間、横須賀商工会議所企画の同イベントに協賛し、登録者の観覧料金一般を 500 円とした。

(19) 横須賀トモダチジャズ 2024

11.3(日)横須賀トモダチジャズ実行委員会が主催し市内約 60 箇所で開催されるイベントの一つとして米海軍第 7 艦隊のバンド他 3 団体によるジャズの演奏が三笠艦上でも行われた。

(20) 「I LOVE YOKOKA スタンプラリー」

11.29(金)から 1.12(日)の間、横須賀市の企画であるスタンプラリーに協力し、三笠入口にスタンプポイントを設置した。

(21) 第 100 回海洋教育フォーラム

3.8(土)公益社団法人日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会が主催する同イベントに協賛し、テーマ「海にみらいを求めて！」のフォーラム会場として講堂を提供した。2008 年から開催されてきた同フォーラムは、今回 100 回目を迎え約 100 名が参加した。第 1 部では、横浜国立大学・平川嘉昭准教授によるマリントックの活用に関する講演、元横浜市立金沢小教諭・坂田邦江氏による海洋教育の実践と展望に関する発表があった。第 2 部では、神奈川県立海洋科学高校・横須賀高校の生徒らが、マイクロプラスチック調査やアマモ場再生、船の動きの予測モデル研究について発表し、優秀な取り組みに対し委員長より賞状が授与された。

(22) 日米親善スプリングフェスタ

3.22(土)同フェスタに協賛し、観覧料金一般を 500 円とした。当日は天候にも恵まれ米軍基地入場者は 55,000 名（昨年は事前予約制 23,000 名）であり、三笠の観覧者数は 2,314 名（同 1,089 名）となった。

(23) ヴェルニー公園ガイドツアー

3.22(土)から 3.31(月)の間、一般社団法人横須賀市観光協会が主催する同イベントに協賛し、ツアー参加者特典として観覧料金一般・シニアを 300 円とした。（利用者約 13 名）

5 広 報

(1) 委託ガイドによる定時艦内ガイドツアー

土日及び祝日に延べ 740 回 15,309 名に実施した。

(2) SNS 広報

主催/協賛行事等をフェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラム、トリップアドバイザーで情報発信に努めており、各サイトでのフォロワー数も着実に増加している

(3) メールマガジン

三笠に対する関心を維持向上するため、役員及び会員等の希望者（約 350 名）

に対し行事の予定、実施の状況等をお知らせするメールマガジンを四半期毎計 4 回(45-48号)配信した。

(4) 機関紙「みかさ」

「みかさ」37号を作成し、会員及び関係先に配布した。

(5) 看板等の設置

ア JR 横須賀駅脇の看板

イ デジタルサイネージ(京急横須賀中央駅、横浜横須賀道路横須賀パーキングエリア、東郷神社)

ウ いちご よこすかポートマーケット

- ・ 館内大型スクリーンへの動画配信
- ・ 正面入口の市内観光案内看板への掲載

エ ポスター類の掲示(夏休みこどもミュージアム、お正月イベントのポスターを京浜急行市内主要駅、JR 横須賀駅に掲示、同チラシを市内マクドナルドに配架)

(6) 新聞、広報誌等への広告

F Mブルー湘南(通年)、神奈川新聞(5回)、朝雲新聞、水交、東郷、タウンニュース(ローカル情報紙)、防衛協会会報(各2回)、世界の艦船、神奈川自衛隊音楽まつりパンフレット、「東郷平八郎記念日」リーフレット(鹿児島水交会)(各1回)に掲載した。

(7) 行事等の新聞等への掲載、放映、放送

NHK、読売新聞、神奈川新聞、タウンニュース、毎日新聞、日本テレビ、世界の艦船、神奈川県横須賀三浦地域県政総合センターHP 等に日本海海戦記念式典や企画展の関連記事が掲載された。(16件)

(8) 報道機関等への協力

- ・ YouTube「井上和彦 虎ノ門ニュース」
- ・ テレビ東京「探求の段階」
- ・ Web サイト(東宝ハウス web)「Toho Shonan エスプレッソ」
- ・ 三重テレビ「Marie Kei 旅とアニメと音楽と」
- ・ 神奈川新聞「119回 日本海海戦記念式典」取材
- ・ テレビ東京「知られざるガリバー」 戦艦「三笠」画像提供
- ・ ハローワーク 地元企業レポートインタビュー
- ・ 横須賀三浦地域県政総合センター地元紹介インスタ撮影
- ・ 横須賀ロケーションサポート関連
- ・ 一般社団法人横須賀市観光協会協力 外観撮影
- ・ テレビ朝日 「日曜マイチョイス」
- ・ テレビ神奈川 F マリノス関連番組
- ・ テレビ神奈川 日本遺産の護守印帳 売店取材
- ・ 市観光課企画イベント撮影協力

(9) ホームページ改修に向けて広告代理店を交え検討した。(検討会を5回実施)

(10) eチケットの販売は、販売先の Web での広報効果もあり継続している。777

名の利用があった。

(11) その他

- ・ 横須賀海洋少年団の活動（陸上訓練等）に協力（１２回）
- ・ 横須賀市から行政視察等の要請をうけ案内等を実施（１８回 181 名）
- ・ 企業等の研修に協力 神奈中バス、帝産観光バス、はとバス（２回）ガイド、東郷神社新人神官、JRC 特機新入社員
- ・ 横須賀地域事務所総合学習の支援として横須賀市立田浦、沼間、野比、三浦三崎、鴨居の各中学校の生徒に対し艦内説明を実施（１４名）
- ・ ４月中旬より 夜間ライトアップを九州フェリー発着に合わせ深夜０時まで行っていたが、広報効果も認められないことから三笠公園の閉園時刻に併せて消灯することとした。
- ・ ８月 開国祭花火三笠艦上からの観覧者募集（応募約 700 件 当選者 150 件(300 名)）
- ・ 横浜国大大学祭、横浜市立大大学祭 協賛（三笠カレンダー、ボールペン、缶バッジ、記念艦「三笠」パンフレット）

6 観覧者

- (1) 観覧者数(無料観覧者を含む)は 201,968 人（前年度比 105.1%）であった。
- (2) 団体観覧者数は 26,325 人(前年度比 93.0%)であった。

順位	都府県	延人員(前年度比)	順位	都府県	延人員(前年度比)
1	東京①	10,816(86.9%)	6	千葉④	782(51.0%)
2	神奈川②	4,020(87.5%)	7	山梨⑩	563(135.0%)
3	愛知⑦	1,330(286.6%)	8	福島⑭	525(194.4%)
4	埼玉⑤	1,307(92.1%)	9	群馬⑥	521(75.4%)
5	静岡③	1,228(78.3%)	10	長野⑨	516(120.6%)

※ ○内数字は前年度の順位

- (3) 観覧収入は 96,522 千円(前年度比 103.5%) となった。
- (4) 団体で来艦した学校数等

	小学校	中学校	高校	大学等	特殊学校	米軍	学校計	人数
6 年度	14	13	5	19	5	9	65	2,843
5 年度	15	15	9	5	4	7	55	3,166

- (5) 外国人の来艦者数は 8,940 人(前年度比 142.1%)となった。(2019 年 6,444 人)
- (6) 主要来艦者

4 月	(研修) 米海軍太平洋艦隊司令官夫人、在日米海軍司令官夫人他 2 名 (研修) イタリア海軍参謀本部 海軍航空部長兼イタリア艦隊航空軍司令官 ジャンカルロ・チャッピーナ海軍少将 他 3 名
5 月	(研修) スリランカ国別研修 (JICA 事業) スリランカ沿岸警備庁長官 プジタ・ヴィターナ海軍少将 他 4 名

7月	(研修) 日越佐官級交流 (笹川財団事業) 第2軍区副司令官チャ ン・アイン・ズ陸軍少将 他17名 防衛省5名 (研修) 田中横須賀市副市長 国交省政務官 石橋、尾崎氏 他5名 (研修) 日印幕僚協議研修 (海幕事業) インド海軍 対外協力・情 報部長 バプナ海軍少将、駐日インド国防武官 マッシュー海軍大佐、 海幕指揮通信情報部情報班長 他4名
8月	(研修) ポーツマス海軍記念館 資料/史料部長ジョー・グルカット氏 (着任挨拶) 横須賀地方総監 真殿知彦海将 (着任挨拶) 第2潜水隊群司令 中野聡1佐
9月	(研修) 元米退役軍人省長官ロバート・ウィルキー氏 (研修) バングラディシュ国防大学 マムン・ウル・ラシード准将 他21名 防衛省2名
10月	(研修) 英国海軍博物館 運営部長アンドリュー・バイネス、日本郵 船2名 (研修) 英国海軍ストライクフォース司令官 海軍少将ロバート・ペ ドレ、駐日英国国防武官 コリン・ウィリアムズ海軍大佐、他4名
11月	(研修) ドイツ連邦共和国大使館 ペトラ・ジグムント大使 他51名 (研修) フィリピン海軍 日比幕僚協議 N2代表マルコ・N・ブエナ海 軍大佐 N5代表ネレイト・P・マルティネス海軍大佐 駐日フィリピ ン国防武官ピーター・トレンティーノ3世海軍大佐 他13名 海幕防衛 課4名
1月	(研修) 元防衛事務次官中江公人、元統合幕僚長折木良一、元陸上幕 僚長火箱芳文、元航空幕僚長外薮健一朗各御夫妻
2月	(研修) 元海幕長 村川 豊氏 他1名 (研修) オーストラリア国防軍デイビッド・ジョンストン司令官御夫 妻、駐日オーストラリア国防武官ジョシュア・ウイルキンソン海軍大 佐、統合幕僚長 吉田佳秀陸将御夫妻、統幕総務部 長高石景太郎空 将補、渉外班長 松崎友和1空佐、他11名 (研修) ポーランド外務大臣ラドスワフ・シコルスキ氏、国防副大臣 パヴェウ・ザレフスキ氏、駐日ポーランド大使パヴェウ・ミレフスキ 氏、駐日ポーランド国防武官マチェイ・レムコフスキ空軍大佐、防衛 大臣補佐官 若宮健嗣、西野洋志 国際政策課長、海幕総務部長 桜 井真啓海将補 他10名
3月	(表敬挨拶) 坂の上の雲ミュージアム館長 伊東彰規氏 他2名

(7) 防衛省職員の研修

自衛隊の14部隊等の隊員・職員(延べ約1,471名)が研修のため来艦した

(8) 外国軍人等の研修

- ・ 英国海軍「スぺーイ」乗員7名 英大使館2名 海自「たかなみ」5名
- ・ 米海軍兵学校生徒6名 引率1名

- ・ ASEAN 諸国軍人等 23 名 海上自衛隊乗艦協力プログラム 内局 4 名
- ・ 米海軍横須賀病院 昇任式 2 回 36 名
- ・ 米海軍 DDG-69(Milius:ミリアス) 昇任式支援 100 名
- ・ 米海軍サイバーサイエンス学部 学生 9 名及び自衛隊サイバー部隊 10 名
引率 2 名
- ・ メキシコ海軍練習帆船クアテモック士官候補生等 80 名
- ・ 海上自衛隊幹部学校 多国籍セミナー参加軍人 43 名
- ・ 防衛大学校留学生 (米国 4 名、韓国 8 名、仏 11 名、台湾 7 名、ブラジル 2 名、
タイ 5 名、その他 20 名)
- ・ カナダ士官候補生 4 名 防衛大学校職員 2 名
- ・ 米海軍海洋対潜戦センター NOAC (NAVAL OCEANOGRAPHY ANTI-SUBMARINE
WARFARE CENTER YOKOSUKA) 退役式 40 名
- ・ ニュージーランド国防大学学生 50 名
- ・ オーストラリア国立大学 安全保障校 30 名
- ・ オーストラリア国防大学 15 名
- ・ インドネシア軍関係者 (笹川平和財団主催) 25 名 海上自衛隊 1 名
- ・ ドイツ軍人 3 名 防衛研究所 2 名

7 会 員

(1) 会員数

会員の種類		新入会員数		年度末会員数	
		6 年度	5 年度	6 年度	5 年度
個人 会員	通常会員	55	57	570	637
	終身会員	69	57	2,302	2,364
	維持会員	13	15	229	211
	小 計	137	129	3,101	3,212
法人 会員	通常会員	0	1	41	45
	終身会員	0	0	25	26
	維持会員	0	1	19	18
	小 計	0	2	85	89
合 計		137	119	3,186	3,234

(2) 月別会費収入

(単位: 千円)

年 度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
6 年度	449	288	508	282	210	321	94	159	189	222	276	528	3,514
5 年度	398	697	357	243	154	188	280	162	162	238	169	707	3,755

(3) 会員対策

ア 海上自衛隊 2 術校において上級管理講習参加者に対し、三笠保存会の概要説明と入会勧誘を 2 回実施した。

イ 海上自衛隊各総監部管理部長と基地業務隊司令に三笠保存会入会案内の書類を送付し退職隊員への入会勧誘を依頼した。

8 運 営

(1) 会 議

- 5. 31(金)第 49 回 運営委員会
- 6. 11(火)第 26 回 理事会
- 6. 26(水)第 26 回 評議員会
- 同 臨時理事会
- 9. 19(木)第 50 回 運営委員会
- 11. 20(水)第 51 回 運営委員会
- 1. 21(火)第 52 回 運営委員会
- 3. 11(火)第 27 回 理事会
- 3. 26(水)第 27 回 評議員会

(2) 理事等の交代

6. 26(水)の評議員会で選任され、次の評議員及び理事が就（退）任した。

評議員

退 任		新 任	
清崎 忠罔	元 湘南水交会支部長		
佐藤 明	前 横造協 代表	佐藤 仁	横造協 代表
高島 忠雄	元 神奈川県議	永井 真人	神奈川県議

理 事

退 任		新 任	
秋本 丈仁	前 YRP 代表取締役専務 元 横須賀市経済部長	鈴木 茂樹	YRP 代表取締役社長 元 総務事務次官
伊東 聡	前 京急 調査役	鎌田 耕造	京急 調査役

6. 26(水)の臨時理事会で大宮理事が代表理事に選任された。

7. 3. 26(水)の評議員会で選任され、次の理事が就（退）任した。

退 任		新 任	
中塚 久雄	(専務) 理事	三輪 一雅	自衛隊援護協会東京支部 元横監防衛部長

(3) 評議員の逝去

11. 9(土) 評議員 長島誠人氏 (JTB 横須賀支店長 53 歳) が逝去され、退任手続を行った。

(4) 理事 (副会長) の逝去

2. 13(木) 理事 (副会長) 小澤一彦氏 (横須賀商工会議所名誉会頭 87 歳) が逝去され、退任手続を行った。

(5) 職員基本給表の改定

10.1 神奈川県最低賃金が1時間1,162円(50円上昇)となり、夏期勤務時間(7.75h)においても最低賃金に抵触しないよう給与を見直した(12,000円増)。

また、最近の物価上昇等を考慮して基本給の1%を加算(約2,000円)することとした。これにより三笠保存会給与支給規則別表「基本給表」を是正し4等級1号俸を185,000円(14,000円増)とするとともに、これに倣い各等級各号俸を14,000円引き上げた。

(6) 職員人事

ア 職員の異動については次のとおり。

配 置	採 用(年月)	退 職(年月)
事務局長	三輪 一雅(7.3)	中塚 久雄(7.4)
総務課長	原 智子(7.1)	-
会計課長	角田 勝美(6.5)	守友 一利(6.5)
売店店長	長澤 和男(6.8)	郷原 健司(6.10)
保 安 係	平松 淳(6.7)	小泉 敏彦(6.7)
売店店員	一木あき穂(7.1)	有村さをり(6.4) 服部 春代(7.1)

イ 6年度末における職員数は次のとおり。

正職員	再雇用職員	パート	計
8(2)	4	5(4)	17(6)

注：()は女子職員を示し、内数である。

(7) 関係官公庁、友好団体行事への参加

定例の会合に出席した他、以下の行事に参加した。

- ・ 遠洋練習航海部隊関連行事 理事長
- ・ 横須賀市戦争犠牲者を慰め平和を祈念する集い 事務局長
- ・ 横須賀水交会講演会・懇親会 理事長
- ・ ひのまるキッズ柔道大会懇親会 事務局長
- ・ 職員と三笠ガイド協会員の懇親会
- ・ 防衛諸団体長等懇親会 理事長
- ・ NPO 法人よこすかシティガイド協会の懇親会 事務局長、総務部長、広報課長
- ・ 横須賀市合同新年賀詞交歓会 理事長、事務局長
- ・ 横須賀防衛協会賀詞交歓会 理事長
- ・ 横須賀警察署武道始式 総務部長

(8) 職員の教育・研修

ア 職員研修会

- ・ 横須賀危険物安全協会が主催する救命講習参加(1名)
- ・ 職員研修 三笠の鋼板について(研究成果の紹介)
- ・ 新採用職員に対する接客、接遇マナー研修

イ 自主防災訓練

地震発生時及び火災発生時の初動対処、観覧者避難誘導方法の演練及び非常用発電機の作動試験及び演練を行った。

9 売店部

(1) 営業収入

6年度の営業収益は52,891千円であり、前年度比110.9%となった。

(2) 通信販売の実績

三笠ホームページ・ショッピングサイトでの販売実績は、取扱件数（109件（前年度比70.8%）、販売金額437千円（前年度比72.2%、営業収益の0.8%）であった。

(3) 新商品

- ・ 横須賀 レモングミ
- ・ セントラルキッチン レトルトカレー
- ・ 旧軍港4都市タオル
- ・ マグカップ 2種
- ・ 日本遺産護守印帳
- ・ ポストカード 安航祈念/船首像
- ・ 間宮ようかん
- ・ 2025年三笠カレンダー

(4) キャッシュレス実績

種 別	取扱件数(件)	販売金額(円)	対売上高	備 考
クレジットカード	4,335 (前年度比 164.5%)	10,886,519 (前年度比 147.2%)	20.6%	NICOS、JCB 等
QR 決済	4,028 (前年度比 124.2%)	5,165,547 (前年度比 126.2%)	9.8%	ペイペイ
合 計	8,363 (前年度比 142.3%)	16,052,066 (前年度比 139.7%)	30.3%	

(5) 棚 卸

4半期毎に棚卸しを実施し、適切に処理されていることを確認した。

(6) その他

- ・ 双眼鏡新替え2台
- ・ 発券機補修（プリンター部）

10 その他

(1) 感染症対策

基本的な対策として手指消毒、換気、密の防止の啓発を継続している。

マスクの着用は個人の判断（職員等についても自己対応）

(2) 熱中症対策

4月から9月までの間、熱中症予防情報サイト（環境省）に登録し熱中症警戒

アラート情報を収集し、観覧者に注意喚起を行った。

- (3) 6.9(日)よこすか seaside パートナーズ(三笠公園管理会社)が主催する「ハワイアンフェスティバル 2024」参加者に更衣場所が不足したため講堂の利用の依頼があり、当日使用の予定がないことから協力した。(有料観覧者20名)
- (4) 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)への対応として、横須賀災害リスクマップ及び三笠自衛防災部署の確認を行った。
- (5) 三笠宮百合子妃殿下薨去に伴い以下に対応した。
 - 11.15(金) 半旗
 - 11.20(水) 弔問記帳 理事長
 - 11.26(火) 斂葬の儀にともなう半旗
- (6) 三笠公園リニューアル
 - 2.19(水) 横須賀市公園建設課(担当課)、大和リース(株)(事業者代表企業)との三笠公園リニューアルに向けての調整会議に参加した。